

高野新聞

Vol.68



たかの
高野 たけし
無所属 40歳

逗子市議会議員（三期）
・副議長
・教育民生常任委員

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

2月28日～3月15日の日程で開催された平成25年第1回定例会において、市長から来年度の予算案が提出されました。

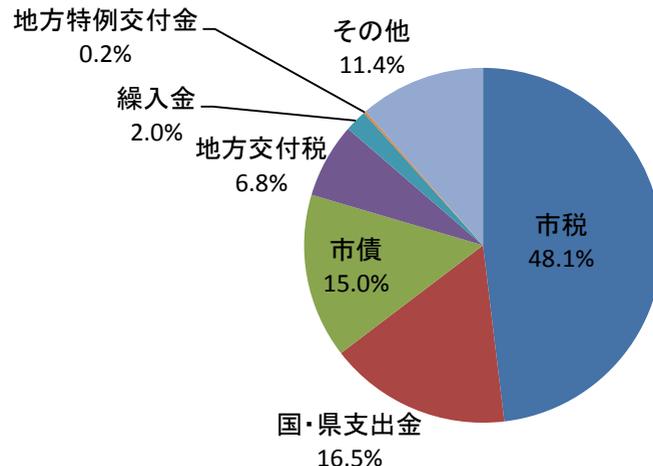
平成25年度予算の総額は335億8,676万円（一般会計：194億8,686万円、特別会計：140億9,990万円）となっており、特別委員会を設置しての審議の結果、賛成多数で可決となりました。

◆下げ止まる気配のない市税収入

逗子市の一般会計における歳入の根幹は市税となっていますが（下図参照）、ここ数年下降の一途を辿っています。これは経済状況の影響もあるでしょうが、人口動態の変化が一番の要因ではないかと考えられます。

そして、こうした状況がこの先も大きく好転する見込みが薄いことを考えると、今やるべきことは事業の必要性を再検証するとともに、予算規模の適正化を図るべきだと思います。だからと言って、何でもかんでも事業予算を削るべきというのではなく、市民ニーズをしっかりと見極めた上で必要な事業は拡大していくべきですし、ある一定その役割を果たした事業に関しては予算規模を縮小、もしくは廃止すべきということです。

一般会計の財源内訳



政治資金の残り あと 3,325円

（12月1日～2月28日の内訳）

支出…ポスター印刷代 57,540円

ポスター掲示用ボード・テープ 2,546円

◆事業内容を見直す時期 ～緑化推進事業～

この事業は市街地の緑を増やし、うるおいのある住環境を創出することを目的に、来年度から生垣推進事業と壁面緑化推進事業を統合し進める予定となっています。

市街地に生垣を増やすため行っている樹木の無償配布は開始当時ニーズの高い事業でしたが、ここ数年は申請件数も年に数件となっています。そこで、これまでのように生垣としての活用だけでなく、自宅敷地内に植える樹木用としての配布にも応じるようにするなど、生垣に拘らず緑化推進の視点に立った事業内容に見直すよう提案いたしました。

また、壁面緑化の助成については、平成17年度以降今年度までの実績が平成22年度の1件のみとなっていることから、継続の必要性が薄いと判断し廃止するよう申し入れたところです。

◆サポート格差の解消が急務 ～地域安心生活サポート事業～

この事業は地域において孤立しがちな一人暮らし高齢者世帯等を地域で見守り支援していくことにより、住み慣れた地域で安心して暮らせる体制づくりを目的に、安心生活創造事業として平成21年度の10月よりスタートしました。

現在は市内全域を30地区に分割し進められていますが、すでに21地区でその体制が整えられている状況にあります。しかしながら導入されている地域間でサポート格差が生まれていることから、来年度の市内全域への体制拡大に合わせてサポート格差の解消に努めて頂きたい旨提言いたしました。

また、来年度からは国庫補助を受けての事業となりますが、その国庫補助も2年間という時限的なものであり、平成27年度以降はどのような予算付けとなるか不透明な状態です。そうしたことから国庫補助がなくなった後、拡大していくサービスを市の単独予算でも維持できる体制づくりを早期に進めて頂きたい旨合わせて要望したところです。

予算特別委員会の質疑を通じては各事業内容の見直しを市長に対して提案するとともに、市民目線を取り入れた事業仕分けの再実施も合わせて要望いたしました。

視察報告 《世界最大容量のLNG地下タンク》

東京ガスの扇島工場に視察に行ってきました。

1969年に東京ガスは日本で初めてのLNG基地を根岸に、そして1973年には袖ヶ浦に開設しています。その後1998年に開設されたのが今回伺った扇島になります。

扇島工場のLNG地下タンクの最大の特徴は完全埋設式を採用している点です。すでに稼働している3基の基地も完全に地中にあり、地上には芝生がはられているので、多くの人がイメージするガスタンクの並んでいるものとは全く異なる環境と言えます。また、完全埋設式のタンクは地上に設置してあるタンクと比べ、地震の揺れに強いというメリットもあるそうです。

そして、液化したLNGを受け入れる施設も海上にあり、そこから海底トンネルを通じてタンクに運ばれている点も非常に珍しいつくりです。

今回は現在建設中のLNG地下タンク4号機も見学させていただきましたが、このタンクの容量は25万kl(東大寺の大仏殿がすっぽり入る大きさ)で、完成すると世界最大となるそうです。内部にも特別に入らせていただきましたが、その大きさに圧倒されてしまったところでした。深さ61.7m、内径72mとなるこのタンクの内部には、-162℃の液化ガスに耐えられるようメンブレンと呼ばれる厚さ2mmのステンレス製の板が全面に取り付けているのですが、細かいカーブなどもあるためすべて手作業で行われていたことにさらにビックリでした。

天然ガスの確認可採年数は現在65.3年と言われていますが、シェールガスやCBNなどの非在来型を含めると約200年との算出結果も出ており、今後さらに需要は増えるのではないかとの見方もされています。

1872年に横浜にガス灯が点灯されてから141年、ガスが私たちの生活を支えるエネルギーとしてなくてはならないものになっていると改めて感じたところです。

現在稼働中タンクの地上部分。地中にタンクがあるとは想像もできません。



実際に使用されているメンブレンと同様のもの。温度変化にも対応できるよう真ん中に遊びが設けられています。



どーなっているの？

市民の皆様からいただいた、ご意見・ご要望にお答えするコーナーです。

Q1 難病指定に向けて意見書を提出

混合型血管奇形に苦しんでいるお子さんをもつお母さんとお会いし、難病指定に向けた活動をしている旨のお話をお聞きました。

聞きなれない病名ですが、混合型血管奇形とは動静脈・毛細血管・リンパ管のうち複数の血管の先天性形成不全をいい、体患部や下肢・その他体の各部に大小の腫瘍のような症状が現れる病気だそうです。この病気は原因も分かっておらず、専門に診ている先生も少ないため明確な患者数は特定できていないそうですが、潜在的な患者数はすでに確認されている人数をはるかに超えるのではとのことです。また治療方法が確立していないため、病名が判明した後も苦しんでいる方が多いそうです。こうしたことから、難病指定を受け原因解明や治療方法の確立に向けた研究がさらに進むことを望んでいるとのことでした。

現在、国の難病指定を受けているのは56疾患ですが、今年その枠を300疾患に増やすとの話もあるため、その際に混合型血管奇形が指定を受けられるよう、今定例会で国に対する意見書を提出させていただきました。

Q2 避難誘導シートの貼り付け作業がスタート

東日本大震災発生後、逗子市の災害対策強化策について独自に市民アンケートを実施し、30項目にわたる要望書を市長に提出いたしました。その結果、津波避難場所の拡充や避難経路の整備、海拔シールの掲示、津波ハザードマップの改訂など、行政当局も順次改善に取り組んでくれています。

そして今回、災害時に避難経路をわかりやすく示す方策として、道路上への避難誘導シートが貼り付けられることとなりました。

このシートは暗闇でも光る蓄光発光の塗料が使用されているため、夜間に災害が発生し街路灯が停電になってしまった場合などにも見えやすい工夫が施されています。今年度は海に近い逗子海岸地区、小坪海浜地区に合計32枚貼られる予定となっていますが、最終的には市内200か所程度に増やしていくとのことです。



市政に関するご意見・ご要望等がありましたらお寄せ下さい。



市政クラブ 高野 たけし

Tel / Fax: 046-871-7368

E-mail: takano_zushi@yahoo.co.jp